

第3回南丹市地域創生会議 意見概要

平成27年10月27日開催

座長：10月末の締切りに向けて多くの自治体が現在取りまとめている中で、決して奇をてらう必要はないが、南丹市なりの特色を出していきたい。期限まで時間は限られているが、この市を代表する各界の皆様が集まっていたいでいるので、それぞれの観点からぜひご意見を賜りたいと思う。そして、この創生戦略が数十年先の人口ビジョンという目的を達成するための、手段の第1歩としてどうかという観点からもご意見を賜りたいので、よろしくお願いします。

委員：合計特殊出生率が2.07になっている国はどのような取組みをして2以上になっているのか。そのような事例があれば教えていただきたい。

座長：2.07に国や府が設定しているのは、平成22年の出生率動向調査の結果に基づいた計算であるが、それが結果的に人口維持ラインに近いという理由である。他の自治体や各国での例がもしあれば教えていただきたい。

事務局：先行的に取り組んでいる諸外国は、国の施策として育児や社会保障、教育分野を手厚くし、子育てがしやすい社会の雰囲気仕事を職場等を含めて地域と一体となつてついている。日本においても長期の人口ビジョンを掲げ、総合戦略を策定し、各自治体でもこの戦略の策定を進めているが、地方単独で出生率を上げていくことはなかなか難しいと考えます。しかし、国、府、市町村というトップダウンの形で取り組んでいくという点で、外国の例を参考にしていると理解をしている。

座長：諸外国の他の特徴としては婚外子の認定が大きい。自由を最大限認め、その婚外子を地域で支えていくべきだと主張する国が増えている。

委員：晩婚化も問題である。実際には希望通りに子どもを持ってない世帯も多いようである。

座長：教育費も負担が大きい。大学まで、最近であれば大学院までの進学を考えると、1人あたり何千万という負担になるが、自治体の政策では補いきれないものがある。

委員：記載されている様々な数値がどのような目標・根拠で設定されているのか。この達成によって今後どのようなことに繋がるかが大事であり、この数字が持つ意味は大変重いものがある。

座長：併せて検証体制がどうなるかということも関係するので、一緒に事務局から説明をお願いします。

事務局：数値目標について、特に人口に関する部分では、人口ビジョンに記載したシミュレーションの結果から設定している。それ以外の部分では、達成できそうもない目標を掲げるよりも、努力次第で実現可能な数値にするべきではないかという議会等からのご意見も考慮しながら、設定している。そしてKPIの数値については、取り組みが本当に効果を上げているのかを随時年度ごとに進捗を確認できるように設定している。この検証の体制については、人数を絞り込んで、評価に関しての知見をお持ちの委員の方にお世話になりたいと考えています。

座長：数値は全ての項目に 1 つずつ付けるのが理想だが、そこまで設定している自治体はない。したがって取り組みをしていく中で指標を見直すという含みがあってもよいかと思う。また事業・取り組みの部分で今回から括弧内に具体的に書いていただいているので、こちらも確認していく必要がある。

委員：全体的な計画としては、この戦略でよいと思う。後は年度別にこの目標を達成するための予算付けや具体化が問題である。

委員：後継者や新規就農者を定着させるためには相当な資金援助が必要。相当思い切った具体的な施策をしなければ新規就農者は増えない。

委員：補助金を受けているのは個人経営が多い。住みたいと思えるまちづくりとしては良い方向だが、一方で農業の先行きは暗い。休耕田の活用について、市が率先して新たな取り組みを行ってほしい。太陽光発電を利用し、例えば上は太陽光発電で下は水耕栽培といった新たな事業を検討してほしい。また、観光客数 170 万人と記載されているが、経済効果や費用対効果が全く見えてこない。

委員：空き家調査の結果を公表してほしい。また、雇用のミスマッチの解消に関しても、年度を区切って進めていただきたい。観光面でいえば、民泊のトラブルが続出している都市部に比べ、顔の見える南丹市ではエコツーリズムも含め、観光は大きな産業になる。ただ観光に抵抗がある一部の農家との合意形成は必要である。

委員：学生や外国人の農家民泊体験が行われているが、受け入れ農家が足りない状況である。家族を伴った再訪問もあり、人の流れを呼び込む有効な手段であるので、市からも支援をお願いしたい。

委員：観光についてだが、年間観光入込客数の 177 万人の内訳は美山のかやぶきの里なのか。バスツアーの客のみを計上した数字なのか。

委員：美山の観光客数は約 70 万人、つまり他の 3 町で 100 万人。施設ごとの集計をされて 170 万人だと思うが、逆算して 365 で割れば、毎日 4,657 人の方が南丹市を訪れるという計算になる。

事務局：この集計は京都府や全国で毎年行われているもので、実数とは一致しない部分もあるかもしれないが、一人ひとりを数えるわけにもいかず、現状の調査方法でもやむを得ないと考えている。

座長：別の観光都市では 5000 万人と言っている。どれだけ来るのかという話である。

委員：転入者の転入理由は把握しているのか。定住移住、仕事等の社会的な理由があると思うが、今後の南丹市の政策を考える上で重要となってくると思う。

事務局：この転入転出の数は住民基本台帳を参考にしている。現在は予定や理由を書く欄はないので、今後の把握のために窓口でアンケートを実施したい。

委員：p 12 KPI 「外国人観光客宿泊者数」について、想定される事業や取り組みに対象を外国人に限定したものはない。指標と事業に整合性が無いので再考すべきではないか。

座長：観光・交流施設の整備・充実という項目について、もう少しソフト面の工夫が必要ではないか。

事務局：決してハード面のみでの整備を意図しているわけではなく、市に寄せられた意見等をもとに、必要なものについては整備し、既存のものをリニューアルしてより使っただけでいいようにすることを目的としている。

委員：京都縦貫道の延伸や道路の拡充工事により、観光客が増加しているが、なかなか消費に繋がらない。NHK大河ドラマの誘致が観光振興に有効であり、市として取り組んでほしい。

委員：北部や南丹市は奨学金制度を活用している方が多く、奨学金の返済が晩婚化・晩産化の原因となっている。こうした都市部と地方において負担がかかる部分の違いに目線を置くのも特色の1つ。

座長：我が大学でも亀岡から通うのは普通でも、南丹市となると下宿という先入観があるが、駅周りの駐車場を整える、通学定期への補助を整えるといった制度があれば、転出させないという効果もあるのではないか。

委員：女性が転出超となっている。女性を雇った企業に助成金を出す等、女性に関して働きやすい場所や環境を整えるのも手段の1つ。

座長：アンケートにおいて不便という意見が多いが、何が不便かということを引き続き調べ、なおかつ女性に選んでもらえるような具体策もしっかり打ち出さなくてはならない。

事務局：各種公職や企業の管理職への女性登用を積極的に進めるとともに、様々なライフステージで社会へ参加していただけるよう、個別の事業を進めていきたい。

座長：KPIにある多子世帯数の裏付けが分かりにくい。背景を教えてください。

事務局：人口ビジョンのアンケート結果から、理想の子ども数は、現実的な予定の子ども数より多く、3人以上となっており、人口置換水準が2.07で2を超えていることから、第3子以上おられる多子世帯を増加させるということで、設定させていただきました。

座長：この想定される主な事業・取り組みで狙いとしている効果を上げるためには、実施段階でさらに充実させる必要があるのではないか。

委員：女性の方がネットワークを持っており情報量も多いため、意見もきめ細かい。人選の際には積極的に女性を入れてほしい。

座長：KPIで女性の審議会等の割合としているが、課題も多い。例えば女性だけ集めて意見を伺う機会をつくる等、多様に工夫して、女性のアイデアを生かし、活躍してもらおうという方法もあるのではないか。

委員：KPIに地域自主振興組織について、現状にないものを新たにつくっていくということだと思うが、具体的にどのようなイメージなのか。

事務局：小学校の再編をした跡地施設を活用していく地域の団体を設立・組織していくと

いう取り組みを今進めている。廃校等を活用した小さな拠点の整備も想定している。

委員：小学校の再編後の整備に関して、予算としては何年間の補助が出るのか。

事務局：地域の協働担当の職員が入り、学校の利活用を検討いただいているが、概ね10年という形でご検討いただきたいとお願いをしている。ただ10年間補助を出すということではなく、できるだけ早く自主財源等を確保して管理いただくことを想定している。

委員：「廃校舎等を活用した小さな拠点の整備」について、表現のことだが「拠点づくりの推進（又は支援）」が適切ではないか。住民が主体で、行政が支援するもの。

委員：観光の地域であれば様々な方と交流があると思うが、何も交流がない所に学校が残されている問題について一番悩んでいる。

委員：京丹波町のような近隣の廃校活用の状況を、南丹市は知っているのか。

事務局：住民による各学校の検討会とともに市職員も、視察や見学に行っている。リーダーの存在や地域のまとまりが重要であるため、一緒に推進していくという形で表現を考えたい。

委員：高齢化が進む中、集落単位での活動には限界がある。旧村単位での自治会組織の設立を市全域で取り組むべき。

委員：基本目標に関して、現在では「しごとの場」を1番に位置づけているが、本来は「若い世代の夢をかなえる」を1番にすべきではないか。

委員：踏み込んだ政策、住民力の強化に力を入れるべき。住民を活用する、巻き込むことが必要。

委員：日吉町の世木地域振興会は、棚田祭りや婚活を自主財源で行っている。補助金等の支援をいただければ嬉しく思う。

委員：子育てを一番に支援すべき。男性は単身赴任ができるので、家族にとって住みやすいまちづくりをしていただきたい。

座長：活発なご意見ありがとうございました。表現等少し庁内で検討いただきたいところもあったと思いますので、そのあたりのご検討はお願いいたします。座長に選任いただきありがとうございます。このビジョンと戦略は長期間のものなので、引き続き関心を持ってご協力いただければありがたいと思います。

事務局：大変お世話になりありがとうございました。今後も引き続きご協力を賜りますことをお願いいたしまして、本日のお礼のご挨拶とさせていただきます。